慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	戦災死者の記憶に関する社会学的研究
Sub Title	
Author	木村, 豊(Kimura, Yutaka)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2013
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.76 (2013.) ,p.155- 157
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	平成24年度博士課程学生研究支援プログラム研究成果報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000076-0155

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

戦災死者の記憶に関する社会学的研究

木　村　　豊

1．問題の所在

本研究の目的は，戦争災害による死者の記憶を社会学における集合的記憶研究の観点から検討することである．戦後60年以上が経過した現在でも，東京大空襲や広島原爆の被災地域は人びとの祈りに包まれる．東京大空襲が行われた3月10日や，広島に原爆が投下された8月6日前後になると，被災地域では，「家」の墓，地域のモニュメント（慰霊碑・供養塔・地蔵尊など），公的な慰霊・追悼施設にお参りをする人びとを見ることができる．そこには戦争災害死者の多重的な供養のあり方を見ることができる．

これまで戦争の死者に関する先行研究の中では，主として戦死者と国民国家の関係が論じられてきた．そこでは，戦死者に関する記念日を通して「国のために戦い」死んでいった者に対する「特別な敬意」を人びとが共有していくことや（L. ウォーナー『生者と死者』Chicago Press，1959年），戦死者に関する記念碑を通して「国民的想像力」が人びとの中に喚起されること（B. アンダーソン『想像の共同体』NTT出版，1997年）が論じられてきた．日本では特に，国家による戦死者祭祀としての靖国神社を中心として歴史学・民俗学・宗教学など多岐にわたる研究がなされてきた．

しかし，そうした戦死者に関する研究が進められてきた一方で，戦争災害死者に関する研究はほとんどなされていない．そうした状況を踏まえて，申請者はこれまで東京大空襲の死者供養について観察調査を行うとともに遺族などの当事者に対して聞き取り調査を進めてきた．また同時に，広島原爆の死者供養に関する予備調査を行い，東京大空襲と広島原爆の死者供養のあいだにいくつかの差異を見出した．そこで本研究期間では，これまで進めてきた東京大空襲の死者供養に関する調査に加えて，広島原爆の死者供養に関する調査を本格的に進めた．

そうして得られた調査資料に対して，本研究では，社会学における集合的記憶研究の観点から検討を進めた．とりわけ，国民国家との関係が論じられることの多かった戦争の死者に関する従来の研究に対して，戦争災害の死者がいくつもの場所で供養される多重的な死者供養のあり方に着目した．それによって本研究では，東京大空襲と広島原爆という二つの戦争災害の死者が社会の中でいかに記憶・想起されているのか，集合的記憶研究の観点から比較検討することを目的とした．

2．東京大空襲の死者供養の調査

これまで進めてきた東京大空襲の死者供養の調査を継続して行った．特に本研究期間は，東京大空襲死者の多重的な供養をつくりあげている場として，地域のモニュメントと公的な慰霊・追悼施設での観察調査を行い，そこでいかに供養の場がつくられているのか調査した．また，そうした供養の場にお参りする人びとへの聞き取り調査を行い，そこでいかに死者を供養し，またその死者をいかに想起しているのか調査した．

まず，東京大空襲の公的な慰霊・追悼施設についての調査を進めた．墨田区にある横網町公園には，関東大震災の身元不明の遺骨とともに東京大空襲の身元不明の遺骨が納められている「東京都慰霊堂」と，東京大空襲死者の名簿が納められている「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」があり，3

月10日には「東京都慰霊堂」内で，「東京都慰霊協会」主催の「都内戦災並びに関東大震災遭難者春季慰霊大法要」が行われる．そこで本研究期間では，そうした式典の観察調査を行うとともに，そこにお参りに訪れる遺族への聞き取り調査を行った．

この横網町公園は，関東大震災の死者に対する供養と東京大空襲の死者に対する供養の重なりの中でつくられたものである．そのため「慰霊大法要」も，毎年東京大空襲が行われた3月10日と関東大震災が起こった9月1日との年に2回行われ，そこでは空襲の死者と震災の死者に対する供養が同時に行われている．そのためそこには，空襲の遺族とともに震災の遺族がお参りに訪れる．東京大空襲や関東大震災で家族を亡くした遺族にとって「東京都慰霊堂」に納められている身元不明の遺骨は重要な意味を持っており，遺族は横網町公園にお参りすることで，空襲や震災の中で「行方不明」となった家族を供養しその死者を想起している．

また，東京大空襲死者に関するモニュメント（慰霊碑・供養塔・地蔵尊など）についての調査を進めた．東京大空襲の被災地域には数多くのモニュメントが建立されているが，その多くは町内会などのコミュニティによって建立されたものである．本研究期間では特に，そうした町内会によってつくられたモニュメントの調査を行うとともに，そこで行われている式典の観察調査，また，そこにお参りに訪れる遺族への聞き取り調査を行った．

モニュメントでは，東京大空襲で亡くなった地域のコミュニティ内の成員が供養される．大空襲から60年以上が経過した現在もなお3月10日前後になると，そのモニュメントの前で各種式典が行われ，そこには遺族を中心として当時のコミュニティの成員や現在のコミュニティの成員が参列する．特に遺族は，そうしたモニュメントにお参りすることで，大空襲の中で亡くなった家族を同じ境遇の中で亡くなっているコミュニティ内の空襲死者とともに供養しその死者を想起している．

3.　広島原爆の死者供養の調査

これまですすめてきた東京大空襲の死者供養に関する調査に基づきながら，広島原爆の死者供養に関する調査を本格的に開始した．特に本研究期間は，広島原爆死者の多重的な供養をつくりあげている場として，地域のモニュメントと公的な慰霊・追悼施設での観察調査を行い，そこでいかに供養の場がつくられているのか調査した．また，そうした供養の場にお参りする人びとへの聞き取り調査を行い，そこでいかに死者を供養し，またその死者をいかに想起しているのか調査した．

まず，広島原爆の公的な慰霊・追悼施設についての調査を進めた．広島市にある広島平和記念公園には，原爆の身元不明の遺骨が納められている「原爆供養塔」と，原爆死者の名簿が納められている「原爆死没者慰霊碑」があり，8月6日には，「原爆供養塔」の前で「広島戦災供養会」主催の各宗教団体の合同慰霊行事である「原爆死没者慰霊行事」が行われ，「原爆死没者慰霊碑」の前で「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が行われる．また同日の夜には公園内を流れる元安川で「とうろう流し」が行われる．そこで本研究期間では，そうした式典の観察調査を行うとともに，そこにお参りに訪れる遺族への聞き取り調査を行った．

広島平和記念公園には，そうした原爆死者に対する慰霊・追悼施設とともに，広島平和記念資料館や原爆ドームと称される旧広島県産業奨励館などがあり，それらは原爆の被害を世界に向けて訴えるものとなっている．そのためそこには，広島原爆の遺族だけでなく，全国（世界）から人びとが訪れる．しかし，原爆で家族を亡くした遺族にとって公園内で特に重要な意味を持っているのは身元不明の遺骨が

納められている「原爆供養塔」であり，遺族はそこにお参りすることで，原爆の中で「行方不明」となった家族を供養しその死者を想起している．

また，広島原爆死者に関するモニュメント（慰霊碑・供養塔・地蔵尊など）についての調査を進めた．原爆の被災地域には数多くのモニュメントが建立されているが，その多くは学校や企業などのアソシエーションによって建立されたものである．本研究期間では特に，そうした学校や企業によってつくられたモニュメントの調査を行うとともに，そこで行われている式典の観察調査，また，そこにお参りに訪れる遺族への聞き取り調査を行った．

モニュメントでは，広島原爆で亡くなった学校や企業などアソシエーション内の成員が供養される．原爆から60年以上が経過した現在もなお8月6日前後になると，そのモニュメントの前で各種式典が行われ，そこには遺族を中心として当時のアソシエーションの成員や現在のアソシエーションの成員が参列する．特に遺族は，そうしたモニュメントにお参りすることで，原爆の中で亡くなった家族を同じ境遇の中で亡くなっているアソシエーション内の原爆死者とともに供養しその死者を想起している．

4. おわりに

本研究期間は，上記の点において，東京大空襲と広島原爆の死者供養について比較検討を進めてきた．この研究課題については今後も継続して調査研究を進めていく予定であるが，本研究期間に行われた調査研究によって示唆されたものとして以下の3点をあげておきたい．

第一に，多重的な死者供養とそこでの死者の想起である．東京大空襲と広島原爆の死者供養は，共通して，「家」の墓，地域のモニュメント，公的な慰霊・追悼施設といういくつもの場所で供養される多重的な死者供養のあり方を成しており，また，遺族はそうしたいくつもの場所にお参りすることで，東京大空襲や広島原爆で亡くなった家族を供養しその死者を想起している．そうした二つの戦争災害死者の多重的な死者供養のあいだに，以下2点の差異が示唆された．

第二に，東京大空襲と広島原爆における公的な式典の差異である．広島原爆の死者に関する式典は世界に向けて行われており，そこには原爆で家族を亡くした遺族だけでなく，全国（世界）から人びとが集まり参列している．それに対して，東京大空襲の死者に関する式典は，関東大震災の死者に対する式典と同時に行われており，そこには大空襲で家族を亡くした遺族とともに，大震災で家族を亡くした遺族が参列している．

第三に，東京大空襲と広島原爆におけるモニュメントの差異である．東京大空襲のモニュメントは町内会などのコミュニティが中心的な役割を果たしているが，広島原爆のモニュメントは学校や企業などのアソシエーションが中心的な役割を果たしている．特に，東京大空襲のモニュメントはそのほとんどに死者の名前が記されていないが，広島原爆のモニュメントはその多くに死者の名前が記されていることは示唆的である．

また本研究期間における研究の成果は，学会での発表（「東京大空襲死者の集合的記憶―多重的な死者供養のあり方に着目して」日本社会学会第85回大会テーマセッション，札幌学院大学，11月・2012年）を行うとともに，学会誌への投稿（「空襲で焼け出された者の記憶―「拓北農兵隊」の戦時と戦後」『日本オーラル・ヒストリー研究』日本オーラル・ヒストリー学会，8号，pp. 125–144，2012年），共著での発表（「広島修道大学「被爆体験調査」における〈死者と生者〉」有末賢・浜日出夫・竹村英樹編『被爆者調査を読む―ヒロシマ・ナガサキの継承』慶應義塾大学出版会，pp. 177–206，2013年）を行った．